令和３年度　子育て支援施策検討部会　議事録

発言リスト

日 時：令和３年９月１日（水）午後７時～

場 所：恵那市会議棟　中会議室

１．あいさつ

２．議題　今後の恵那市の子育て支援だて支援施策について

①高校生への支援

②少子化対策

③こどもの育成

④こどもの健康

１．あいさつ

■事務局（伊藤）：本日は子ども子育て会議の子育て支援施策検討部会にご出席いただきありがとうございます。

前回は会議の中で 20 名の委員にそれぞれご意見をいただいた。今回は部会として少人数で更なるご検討いただき、取りまとめをしたい。

■事務局（鈴木）：資料の確認　ファーストスプーンの事業内容、中央公園整備検討委員会の経過について説明。

■坪井委員長：お仕事の後、また、コロナが心配される時期にお集まりいただき感謝申し上げる。子育て支援に関する施設をご検討いただき、来年度の予算に挙げたいのでこの時期に開催となった。

議題としては、恵那市の子育て支援施策について…の１題のみとなる。

内容については４つの項目に分けてご議論いただきたい。

事務局から説明を願う。

■事務局（鈴木）：資料について…いただいたご意見を分類させていただいた。意見については発言リストをご参照いただきたい。

令和４年度以降の新しい施策として何かできないか、という事で取りまとめた。

①高校生への支援

医療費の助成、若い人の検診、予防接種の充実

事務局説明：

県下の 21 市のうち部分的な助成を実施している市も含めて 7 市が医療費の助成を高校生まで実施している。東濃 5 市では 1 市も実施していない。

恵那市で実施した場合の費用は、試算で入院が 180 万円/年、通院が 3,062 万円/年ぐらいとなる。

●医療費助成について

必要経費は大きいが実現できればとても助かる。少子化対策にも繋がる。
自分は多治見市在住で下の子はもう高校を卒業してしまったが、多治見市は東濃で医療費助成が一番遅かったために、私はその恩恵に預かることはできなかった。高校まであれば親としては非常に助かる。財政的には大きい。市としてどうかとは思うが、一市民、親としてはありがたい。
医療費の無償化は、もし実現できるのであればとても大きい事だと思う。高校生の医療費無償化が可能になれば、この施策検討の中の一番の目玉となるのではないか。
医療費の無償化は予算が許せばぜひ実施して欲しい。

●若い人検診、予防接種

医療費だけでなく検診とか予防接種も含めて助成がされて、気軽に受けられるとなれば「恵那市っていいなぁ」となると思う。
予防接種の助成範囲を広げて高校生もインフルエンザの予防接種ができる様にしたらどうか
予防接種も力を入れて助成してほしい。

※若い人検診については…

●高校生等への支援【地域との関わり・恵那の魅力　～就業支援、相談体制　】

生涯学習「三学塾」の高校生版があったら良い。仲間と気軽に参加できて高校生に特化した物があって学校から気軽に申し込めるような仕組みがあると良い。 山岡では中学生の時はボランティアが推奨されていて、忙しく参加していた。内申点にも評価される。高校生も生涯学習に参加したらラッキーな事があると参加者も増える。何より仲間が居ると楽しい。
中高生で将来の夢が決まっている子はあまりいない。体験する場所も無い。ギターやスケボーが得意な人が居たら、三学塾のように冊子にしてもらって参加して教えてもらえるような仕組みが出来たらいい。その中で職業につながるような体験ができるといいなぁと思う。
中学で将来を決める事ができている子は良いが、なかなか居ない。高校生になって「もう決めなきゃ」という時に今までの体験した事が生かせると良い。
講師の人にも何かメリットがある仕組みができたら良い。
恵那市で育って、恵那市を出ずに、出ても帰って来て、この近辺で就職できるようにしないといけない。
恵那と中津川は何十年か先には一つの大きな街になると思われる。地元にどんな企業があって、高校や大学を卒業してから戻って来ても十分その価値はあるんだというところをなかなか気づいてもらえない。 中学高校のうちに地元にはこんなに良い企業があるんだ、こんなにたくさん給料が稼げるんだというところを、高校生までの間に判ってもらえるような、体験学習も含めて何か施策をやってもらえると良いと思う。
企業展とか何度か出させてもらった。たくさんの高校生が話を聞きに来てくれた。恵那の食品関連の企業は非常に人気がある。南高校へ伺って進路の話をさせてもらった事もある。前回にも話題になったが、大卒の子が帰ってくるところが少ないという事はあると思う。
学生と就職相談をしたところ、名古屋の方の保育園に行きたいと言う。ＳＮＳで見つけて来ていた。地元の子を地元へ帰すという観点から地元の良さを説いた。地元と学校が協力して、地元に就職してくれるように勧めていかないといけないと思っている
地元の事を知らない子も多い。知ることが大切。 恵那に住んで良かったと思える、生まれて住んで良かった、大学とかで出て行ってもまた帰ってきたいと思える形にもっていきたい。そうしていくためには、恵那に住んでいるうちに良い思いができあがるようにしてあげたい。

高校生への施策として助成などの経済的な保障としては大事な事だが、高校生自身にどういう手を差し伸べるかも大切だと思う。集える場所、学習支援などが必要。高校生の層を 3 つに分けると、「支援しなくても自分達でやっていける」「ある程度支援は必要だが、結び付けば問題なくやっていける」「きちんと手を差し伸べないといけない」の 3 つに分けられる。コロナの中で支援の必要な子が増えている現状がある。3 割ぐらいの子ども達は何らかの支援が必要な家庭となっている
高校生にもなると特定の課題ではやれない。敬遠してしまう。学力の問題、経済的な問題も含めて、内に入ってしまう子がたくさん居る。 学生は直接話が聞ける場を求めている。行政はそういう場を提供すると良い。そこに支援員の人が居て、「この日に行けば話が聞いてもらえる」「話す事ができる」という仕組みがあると良い。できればオープンなスペースが良い。スパーマーケットや公園とか…
彼らは興味があるから人と繋がりたいと思っている。ある種の不安も抱えている。逃げ道が無いと安心して行けない。オープンな場所でチラシやティッシュを配りながら高校生達と繋がりを作るなど、中高生のアウトリーチというか本当に支援が必要な子たちにどう手を差し伸べるかというところで行政が支援員の育成という立場の中で、大人との関わり方が習得できるような講座を開きながら、そういう事ができる場と人材を育てていくという事が必要なのかと思う。特定の課題で集まる事のできるイベントと、そうではない声を掛けてくれるだけでいいという手の差し伸べ方を考えていけたらいいと思う。
バローの 1 階が昔と違ってフードコートが広いスペースになっている。コロナ前は、高校生が何人かでかたまって色々な話をしていて、いい雰囲気があった。今はそれができなくて残念だ。 「何曜日は誰々先生が居て話ができる」という場が作れたらいい。
その人が色々な所と繋がりを作って、公的な支援に繋げていけたら良い。 アドバイザーというよりは気楽に話ができるおじさんおばさんが居る。という形が良いと思う。
今の高校生の達のなかなか交われない子たちをどう人と関われるようにするかという観点から、まず場を作るという事と、支援をする大人を養成する事、チラシか何かでＰＲをする事が必要ではないか。 それから、中心地は学習の場や塾とかにも来られるが、周辺の地域はなかなか集まりの場へは来られないので、周辺にもそういった場ができると良いと思う

②少子化対策…

不妊・不育の治療費助成、職場理解、男性の育児参加、母になるための教育、

多子・第 3 子支援、産後検診

●少子化について

本当に子どもが生まれていないという事を実感する。昔はひとりの保育士が 30 人の子どもをみていこともあったが、最近はクラス数もどんどん減ってしまっている。
恵那に住んで良かったと思える、生まれて住んで良かった、大学とかで出て行ってもまた帰ってきたいと思える形にもっていきたい。そうしていくためには、恵那に住んでいるうちに良い思いができあがるようにしてあげたい。

●不妊、不育治療　産後ケアなど医療的支援

前回の会議で、不妊治療をやってもらいたいという意見もあったし、多治見まで行かなければならなくて大変。という意見もあった。恵那病院に産婦人科ができたので、近いところで不妊治療がしてもらえたら子どもを産む人が少しでも増えるのではないかと思う。
今、親子関係が希薄になっている。親は頼らない、姑さんも頼らないというママが結構いる。そういった中で恵那病院では産後のケアをしてくれる仕組みもできてすごいなぁと思う。不妊で悩んでいる人が周りに居るので、恵那病院でも治療ができたらありがたい。
親の世代が以前と違って、なかなか子ども達の面倒を見れなくなってきている。自分の子どもが結婚をして何かあった時にどれだけ補助ができるかというと不安。 自分達が生活するので一杯。あまり余裕が無い。親の力が落ちてきている。

●婚活

民間がやる婚活パーティーに補助を出すとか、もっと広域的な婚活パーティーがあっても良いのではないか。瑞浪とか中津川とか… 婚活が進まないのであれば範囲を広げる事も必要ではないか。
恵那市から補助をもらっているので、男性は恵那の人、女性はどこからでも良いとしている。そうすると男性はいつも決まった人になってしまう。
女性の住んでいるところへ男性を引っ張ってくるという家も結構あるのではないか。であれば広域で考えても恵那に来てくれるかもしれない。

最近ではマッチングアプリなどで奥さんをもらう方もある。研修の講師の方も開講挨拶が「アプリで出会って嫁を貰った」であった。時代が変わったと感じた。
鮎の網漁に引っ掛けて、みんなで鮎を取るというイベントで婚活をやった事がある。なかなか珍しい事なので豊田の方からも女性が参加してくれた。恵那市の特色を生かしたイベントをする事で市の PR にもなるし、参加者も恵那の魅力に気づいてもらえる。遠くから参加してもらえるのではないか。
婚活では通常女性の方を求めているが、逆に男性を求めても良いという事でもある。こういう少し変わった婚活を展開してみるのもアイデア。

●多子世帯の支援

多子支援を考えたて場合、今となっては 3 子を設けるのはその時点でかなりの決意が必要。1 人目から支援をすると「1 人でいいか」になってしまう。少なくとも 2 人産んでもらえる環境を整え、3 人目の子は手厚い支援をする。まずは 2 人目が居ないと 3 人目が生まれないので…
第 2 子の支援はあればありがたいが、2 人子どものある家はとても多く、支援となると莫大なお金が必要になると思われる。
第 3 子の支援と聞かれて、お金を配るとか減免するとか色々あるが、皆さんはどんな事をしたら、もう一人生もうというきっかけになるか？
保育料でしょうか。 無償化といっても未満児は保育料が必要。3 人居ると無償だが、3 人の要件が厳しい。
上の子は大きくて離れて 4 人目の子が生まれたお宅があるが、とても大変だったと聞いた。多子の場合は保育料・給食費など無条件で無償というのがあるとありがたい。
少子化対策で給食費を無償とするとどれぐらい費用が必要だろうか。給食費が払えなくて滞納になっている人が大勢居ると聞く。食べるは一番大切な事。

●職場の理解について

現在は事業主の行動計画を作らないといけないが、会社ではなかなか男性の育児参加ができていないと聞く

うちの会社はそもそも若い人が少ない。20代2人、30代が4人… 子どもが生まれた時の休暇はあるが、育児休暇のような長期の制度はない。どうしてもお子さんの事で休まないといけない時は、有給を使って休んでもらっている。 まだ（育休を）取りたいと、相談を受けたことが無い。申し出があれば真剣に考えていきたいと思う。
市役所でもなかなか男性の育休は取られていない。最近少しずつ出て来た。 上の方は良い事だ。とおっしゃるが、現場は当然ながら仕事が止まるので代替えが必要になる。とりづらいと聞く。
男性の産休取得は少し出て来た。2週間ぐらい取る職員は居る。最近では3ヶ月 取った職員があった。 年という単位で休む男性職員はまだ無い。どうしても給料の問題がある。

●母になるための教育

いつかは授かりたいが、いつでも子どもが授かれると思っている人に対して、子どもを産むためには準備が必要という事を啓発しなければいけない。
「体のケアをしたりしていたから授かれた」という意見があった。出産を何歳までに…とか計画を持つ事も含めて支援をするのはどうか。いつでも生む事ができると思っている人もある中で、教育という意味合いも含めて何かできないかと思う。

③子どもの育成…

動環境の提供（走り回れる場所が足らない）、自然とのふれあい+木育、公園遊具、親が気軽に話せる場所（ママ達の気軽に集まれる場所）

●運動環境

子育て支援のポイントとしては、子どもを観るという事が必要。スキルを持った支援員が居るという事が必要。
大垣市の事例で、プレイパーク（大垣城の公園）に常駐の支援員を置いている。そこに人が居る事で、子ども達も保護者も繋がりができたり、輪ができたりしている。公園というのは良いポイント。今度、恵那市にも新しい公園ができるのであれば、毎日居るのは無理かもしれないが、この日は必ず居るという日を作って、そこで繋がれる人が居て、遊びを教えてあげるとか、保護者との話し相手になれる人が居ると良いと思う。
図書館横の公園に孫を連れて行ったとき、スケボーをしていた高校生が、孫をスケボーに乗せてくれた。とてもいい交流だった。 街の中に木があって、水があって、広場があって、高校生がギターを弾いていたり、おじいさんがベンチでうとうとしていたり、赤ちゃんが遊んでいたり、そういう場ができたらいいと思う。
アクアトトの広場は、水遊びもでき、アスレチックもあり、キッチンカーが来ていたり、食べるエリアがあったり、0歳児から大人までゆっくり過ごせるとても良い場所。恵那市も公園はあちらこちらにあるので、あと一歩手を加えれば憩いの場ができあがると思う。
市街地にはいくつか遊び場が作られているが、旧郡部にはそういったところが無い。全ての町ではなくてもよいが、山岡とかどこかに１つあると良い。恵那市街まで 30 分以上掛かって来なければならない。例えば岩村ぐらいなら 15 分ぐらいで行ける。周辺部にも目を向けていただきたい。
山岡にイワクラ公園という施設があって色々整っているが、なかなか利用されていない。今あるものを活用していっぱい遊べるところを作ろうという事で森林環境教育推進協議会でも話が出ている。
「まきがね公園に遊びに行ったら滑り台が壊れて使えなかった」との報告があった。新しくは無理かもしれないが、既存の公園の整備をしてもらって有効活用をしていただきたい。
私たちからすると「市街はいいなぁ」と思う事が多い。市街の人たちから「周辺部はいいなぁ」と思ってもらえるものを作っていたただけるとありがたい。広い市なので判るが、ちょっと遠い。

運動環境の提供と自然とのふれあいの所で、ファーストスプーンをやった森林環境教育推進協議会の方でも、来年度何をやっていこうかという会議を持つ。各子ども園で木育をやるとか、ヒノキのおもちゃを作りたい、とか色々な意見がある。子ども達が全身を使って遊べる取り組みもしていきたい。
お母さん達だけでは、なかなか子ども達を元気いっぱい体を動かして遊ばせる事は難しい。集団でやれば 1 つの物になって行くと思う。運動環境の提供でも、どこであっても体を動かす事ができれば運動環境の場所になりうるという事だと思うがいかがか。
身近な場所で安全なところでできるのが大切。それに加えて、そこでなければできない体験も含めて取り組んでいけたら良い。

●親が気軽に話せる場所（ママ達の気軽に集まれる場所）

コロナ禍なので、こども園のお迎えの時はおしゃべりせずになるべく早く帰ってもらうべきだが、子ども達もお母さん達も色々と制限された生活を送ってみえるのでストレスがあると思う。子どもの事やたわいもない話をする機会が貴重なんだろうなと思う。あそこへ行けばみんなと話しができるというのは大切。お母さんたちは色々忙しいとは思うが、話せる場所が足りていない気がする。
妊娠中や子育て中のお母さんが、何か判らない事を相談したり、話を聞いてもらいたい時にぷらっと寄れる場所が大切」との意見があった。
妊娠中や初めてのお子さんを育てているお母さんは不安があると思う。気軽に相談できる場所は大切。大きな場所はいらない。
バロー恵那店の 2 階に「えなえーる」があるが、毎日行事が詰まっている訳ではない。例えば「毎週の水曜日はお母さん達の日」として誰が来ても良い日を作ってはどうか。
えなえーるでお母さん達の出会いの場を行うのはとても良い。見守りスタッフを置くのか、子どもは自身で看るかのルールを徹底しないといけない。
行事中は子どもの見守りスタッフを充てているが、行事が終わった後は見守りスタッフは居ない。子どもは勝手に遊んでいるか、そこら辺を飛び回っている。そういう時間帯に事故が起きる。主催者は気が気でないと思う。
お母さん達には１時間半の講座を３回受けてもらったけど「この短い間に全く知らない人と友達になれた」と言ってとても喜んでおられた。逆に、出会いの機会が少ないという問題もあるのではないか。

アナログな方も結構いるので、出掛けて行ってちょっと話を聞いてもらうだけでも良いっていう場所も必要だと思う。市がやるのが良いのか NPO がやるのが良いのかは考えるとして、そこへ行けば話が聞いてもらえるという場所があって安心して行くことができて、経験豊富な先輩お母さんからアドバイスがもらえる場があるのが良い。更にそれらの web 版があると家からも話に参加できる。

●情報ツールを用いた交流の場（Zoom、LINE ほか）

市でママ友バージョンの出会い系のアプリを作って管理する事はできないか。 また、Zoom みたいなものでお母さんたちの交流やイベントをしてもらうことはできないだろうか。コロナ禍という事と、小さい子どもが居るので出掛けられないお母さんが、自宅ならこういう催しに参加できるのではと思う。講師の先生が画面の向こうで色々指導してもらうような講座があると良い。
２ちゃんねるのような雑談ができる掲示板を、ママ達用に作って市が運営したら良いのではないか。カテゴリー別に、不妊で悩むお母さんの掲示板、子育ての掲示板などがあると、家に居てもたくさんの人と繋がれると思う。相手が見えないので、なかにはインチキを書く人も出るだろうけど、あくまで個人判断で利用してもらえばどうだろうか。
登録している人を市がある程度管理できるようにすれば、誹謗中傷やいけない投稿を監視して削除するようにすれば良い。その管理を在宅勤務で誰かに委託すれば雇用にも繋がる。
LINE のチャットでも良い。色々な手法がある。 集まれるのが一番だと思うが、コロナ過なので…

子育て支援センターとして公的なものがあったり、ＮＰＯがやってるところがあったり、手作りのものがあったりして、そういう所が横の繋がりがわずかでもできてくると違ってくる。支援を行っているところは、今は対面ができず活動をストップしてしまっているところが多い。ｗｅｂやＬＩＮＥのオープンチャットを使えばできそう。恵那市が主導しながらどうやって繋がりを作っていくかが課題になると思う。今、施設がありスタッフが居るのであれば、そこをうまく繋いでいけば、小さい支援も含めて作っていけるのかと思う。

④子どもの健康

若い人検診（全体的に）、母子手帳の延長、予防接種の充実

●母子手帳の延長「子ども手帳」

子どもの健康についてはどうか。先ほどの若い人検診や、前回の会議では、母子手帳を拡充して 18 歳までの色々な記録が載せられるようにした「こども手帳」を作ってはどうか。
母子手帳１冊に子どもの事をまとめておきたい。子どもの記録を書いておきたい。という考え方の人には大切かと思う。今の母子手帳に付け足す形の物であれば、要らない人はそのままで、必要な人だけ追加する形ができて良いかと思う。
最初の話で出た医療費の助成にしても、高校生まで恵那市として面倒見ます。東濃5市でも恵那市は先行して高校生までやるから安心して子どもを育てていただけますよ。少子化の対策もしていきますよ。のアピールもして、なおかつ母子手帳も 18 才まで記録してくださいね。というセットのような形が良い。何の支援も無いのに手帳だけ 18 歳までになってもおかしい。高校生までの支援をしたうえで、母子手帳も 18 才まで延長する。全部に繋がるものだと思う。

●予防接種の拡充

予防接種の助成範囲を広げて高校生もインフルエンザの予防接種ができる様にしたらどうか

●子どもの健康

子どもの運動環境について発言したが、子どもの健康にも関わってくると思う。文科省でも幼児期の運動方針というのが出されている。就学前の子ども達から体を動かす喜びをどう育んでいくかが大事。公園や遊具、こども園の役割が大切になってくる。就学前の子ども達の運動は、発達保障でもあり丈夫な体を作る事でもあり、社会性の面も体を動かすことで育つので充実させていく事は大切。きちんと保証してあげたい。

こども園「幼児・保育コース」について

やはりこども園での機会の均等や保証は、幼児部のところであと２時間あれば…保育ってどうしても活動があり遊びがあるという事で繋げて行かないと成り立たない。保育指針幼稚園の教育要領に書かれているが、国の保育の方針と外れている。厚生労働省社会保障審議会　(保育専門委員会)座長の汐見稔幸氏もはっきり言っている。
「遊びの続きをやろう、と言ってもあなたは２時帰りでしょ。」という事で仲間外れにされていく現象もあると聞いている。２時間の時間は子どもにとって大切。やはり一緒にしてほしいと思う。
幼児コースに出しているお母さんから、お誕生日会が夏休みに重なってしまい、休み明けにまとめてやってもらったが、悲しかった。いう話を聞いた。
自分の子は、誕生日会の時だけ保育料を払って延長保育をしておやつの時間まで参加させた事がある。
次の子ども子育て会議の時に教育委員会に思いを直接伝えてはどうか。

　今回この４つがきちんと繋がりを持って、そこを結ぶところが恵那の魅力としてどう繋げていくか、人の繋がりをどう作っていくか、そこでもこの４つが繋がっていくのかと思う。

今日はたくさんの意見をいただいたので、事務局の方でそれぞれのカテゴリーにまとめていただいて、もう１回この会議をやりたいと思います。まとめていただいたところで、それぞれの繋がりとか色々なご意見をいただいて最終的なものができあがるようにしたい。出してもらったもので完成ではなく、ここはいらないとか、もう少し足した方が良いとかを皆さんで提案して行けたら良いと思う。
　どうしてもこれは話しておきたいという事があれば伺います。

他市では部活動に入らなくても良い学校が増えてきている。中学の部活の無い種目で活動をしている子も居るので、未加入を認めている。ところが働き方改革のような動きも含めて、部活動を先生たちが面倒をみない状態が出ている。クラブ活動の方は全然みない。部活動も一週間のうちに 15 分しかない。そんな学校がある。それが文科省で注目されているそうで、岐阜県の方で広がって、恵那の方にも流れて来

る可能性がある。「部活動に対して全く学校側は知りませんよ。」という事になってくる。副市長も言っておられた。部活動の大切さ、各年代の子どもたちが集まって取り組むことには、良い事がたくさんある。
教育の一環であると言いながら軽視されている状態になりつつある
学校の授業と一緒のような重要さでもって、部活が恵那・中津川で生かしていってもらえたら良い。子育てというところで目を向けていただけたらと思う。

他課の業務に及ぶところについては、子育て支援課が手出しする事はできないが、「子ども子育て会議という重要な会議の中で出た意見である」というところを、伝えていきたいと思う。

次回の会議を開催していただき、更に精査をお願いしたい。

次回の会議について・・・
　令和3年9月15日　19時～を決定し　会場は改めて連絡する事となった。

—　終了　21:04　—